



Faculty Waseda University Graduate School of Asia-Pacific Studies (GSAPS)

2021
2022
VOL. 1 | **Spotlights**



GSAPS Faculty = Expertise × Humanism

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 (GSAPS) では
専門分野の第一線で活躍する研究者や
国際連合・世界銀行・UNICEF等の国際機関
外交やマスメディアなどでの実務経験を持つ専門家など
高度な研究力と実践力を持つ
多様な "Faculty (教授陣)" が教鞭をとっている

その唯一無二の "Expertise (専門性)" と
多彩なバックグラウンドで培われた
豊かな "Humanism (人間性)" を
共に持ちあわせた教員の声を通じて
GSAPSが掲げる3つの領域
「地域研究」「国際関係」「国際協力・政策研究」を
深く学ぶ魅力に迫る



Kazuo KURODA

黒田 一雄

専門分野：

比較国際教育学、教育政策、国際教育開発論、国際高等教育論

私が今、専門としている分野について

以前は「発展途上国における教育開発と国際協力」を研究対象としていましたが、今では、「アジア地域を中心に先進国を含めたグローバル化する世界における、国際教育協力や教育のグローバル・リージョナルガバナンス（例えばSDGs教育目標やインクルーシブ教育、高等教育の地域的国際連携）」にまで対象が広がっています。私は学生時代に途上国を支援するボランティアや国際交流活動に関わる中で、この分野に興味を持ちました。当時日本ではこの分野を学ぶことができなかったため、米国で大学院生活を送り、専門性を深めてきました。

日本・アジアの国際教育研究には将来性がある

私は今、国際的な観点から日本やアジアの教育を研究することは、非常に価値のあることだと考えています。歴史的に教育は国民国家を単位として構想され、実践されてきました。しかし、情報技術の劇的な進歩や、人の移動の爆発的な拡大にともなって、教育のグローバル化、国際教育協力や教育のグローバル・リージョナルガバナンスが急速に進展しています。今後の教育の在り方を方向づける専門分野として、この分野は大きな発展可能性を持っていると感じています。

教育が進化するダイナミズムを感じられる

かつて途上国と言われていたアジアは教育援助を受ける側でしたが、現代のアジアの教育は進化し続けています。アジアには日本の一般的な大学を超えた研究水準の大学が数多くあり、今ではアジアの教育モデルは世界に共有できるレベルまでダイナミックに進化しています。そのプロセスを知ることには知的な興奮や面白さを感じています。今後は、アジアを「援助の対象」としてよりも「共に成長していくパートナー」として捉えることが重要です。日本やアジアの教育の研究には、世界に対してアジアのモデルを提供できるという将来性もあります。

新しい国際教育協力に貢献できる人材になってほしい

国際教育協力は、二国間教育援助のような垂直的な関係に加え、SDGs・ユネスコを例とする「グローバル・ガバナンス」、また、ASEAN+3・EUのような「リージョナル・ガバナンス」といった、国境を越えて問題を解決する水平的な関係においても展開しています。そういった新しい国際教育協力を作ろうとしている国際社会に貢献できる人材をGSAPSは育成できていると考えています。「国際関係」と「国際開発」を、現場のリアリティとともに深めていけるのが、GSAPSの独自性であると思います。

人が「移動」するのは理由がある

私は「人の国際移動（国境を越える移動）」や「移民」について研究しています。私自身は中国出身で、農村より都市部の生活条件の方が望ましかったこともあり、幼い頃から国内移住の経験がありました。中国では、都市部において福祉や教育などの資源を享受できるのに、農村ではメリットを享受できず、農村から大学進学するなら同じ全国入試でも都市に居住する人より100点以上高い点数を取る必要があるなど、不平等な環境が存在していました。こうした地理的な移動は、その不平等を解決する手段になっています。また、国境を越える移動にも同じ理由があります。私は、国際移動をグローバルな経済的不平等や人権問題、労働力不足、環境危機を解決する重要な行為と捉え、研究しています。

移民、環境難民・紛争難民の対処が課題

日本では少子高齢化が進み、人口が減少し、労働力の不足が深刻になっています。外国人を労働者として受け入れるほか、私のように移民として日本社会の一部になっている現実もあります。日本の将来を考えると、移民をどう統合するかが課題です。また、世界的規模の移動がこれからさらに増えます。地球温暖化で、環境難民の増加も予想されています。世界的に政治状況が不安定で、戦争や紛争なども発生しやすいため、紛争難民も増えるでしょう。危機への対処が重要です。

現場で“リアル”を知ってもらいたい

私の講義「グローバル文化論」では、国際移住が、送出国と受入国の社会と文化や移動している人たちの帰属意識とアイデンティティにどう影響するかという点に注目し、移民の社会的経済的実践と文化的慣習など、様々なトピックについて学生各自が参考文献を読み、活発な討論をおこなっています。私は、学生が自ら問いを探し思考できるよう促します。さらに、学生が社会現象や研究対象の本質を理解するには、現場でのフィールドワークが不可欠であると考えます。

私がGSAPSに来てほしい学生

多国籍な学生が在籍しているため、直接の交流を通じて国際的な学びの機会があることがGSAPSの大きな魅力です。「国際関係学専攻」ですので、越境という概念さえあれば、経済から歴史、文化、社会、政治など様々な観点から学べます。GSAPSには議論する文化があって、活発に討論できるのも特徴です。社会的問題に関心があり、その理解や解決のため、科学的知識とツールを習得したい人、知的関心があり専門家になるためにさらに深めたい人、異なる文化に興味があり、国際的な視野を持ちたい人には最良の環境だと思います。

File

02

フエーラー・グラシア

Gracia
LIU-FARRER

専門分野：国際移動、社会階層論、グローバリゼーション、国際教育

File 03

David LEHENY

デーニー・デイビッド

専門分野：
日本政治、東アジア地域安全保障、国際関係と文化

「文化と政治」に関心を抱いた背景

私の関心は「文化と政治の関係性」についてです。国家リーダーや市民たちが自らの政治的活動をどのように理論づけ、説明し、また解釈し、行動しているのかを研究しています。例えば、日本人やアメリカ人が同じ行動を取ったとしても、人々は「日本人的な行動しているね」「アメリカ人的な行動しているね」と違う解釈をすることがあります。私は、人が政治的な役割において行動する際、その行動のもととなる信念や動機が何であるのか、政治的な関連性を研究しています。

政治的行動を動機づける意識に着目する

私がこの研究を選んだのは、意思決定や政策を戦略的、合理的、目的意識的な行動の結果として扱う、一般的な政治学のアプローチに不満があったからです。代わりに、その行動が、自分の役割を果たそうとか、人（アメリカ人、男性など）として適切に振る舞おうといった意識に動機づけられていることに興味を持ちました。私は「批評理論*」に基づき、社会学者や人類学者と同じく、政治的行動を行為者自身にとっての意味を形成する文化的・思想的環境の中に存在するものとして捉えようとしています。

「批評理論」を重要視する理由

「批評理論」はある現象に対して批判的な観点から仮説を作り、どうアプローチするかという手法です。政治・外交議論において当然とされる概念や理念に対しては、常に疑問を持ち、批判的な視点を持つべきであると考えます。人種や性別、戦争などの解釈においても、ナショナリズムやアイデンティティを踏まえ、その国での不平等さなどがその解釈にどう影響するのかについて特にこだわり、考察します。GSAPSの学生には、自ら主体的に研究を行うことを望んでいます。自ら批判的な視点を持つことができるようになりますし、私も学生から学ぶことができるのです。

学生には、批判的な視点を持ってほしい

政治を批判的に捉えることは、単に何かの良し悪しを指摘することではなく、私たちが当たり前だと思っているカテゴリーや考え方に疑問を投げかけることを意味します。例えば「人間の安全保障」という考え方は、国家に焦点を当てた国際安全保障の考え方に対する批判として生まれました。批判的に考えることで、人々が日常的に直面している隠れた問題や課題を見つけ出すことができます。学生には、自分なりの研究計画を立てながら、常に従来の常識や一般的な主張に対して批判的な目を向けてほしいです。

* 批評理論：ドイツの哲学者ホルクハイマーらが唱えた現代社会と人間理性に関する考え方

Faculty Profile 教員プロフィール



File 01 / 黒田 一雄

専門分野：比較国際教育学、教育政策、国際教育開発論、国際高等教育論
研究テーマ：発展途上国におけるインクルーシブ教育と特別支援教育、高等教育の国際化・リージョナル化・グローバル化、教育の国際協力とグローバルガバナンス

【主な経歴】

米国外開発評議会研究員(1996-1997)/広島大学教育開発国際協力研究センター講師・助教授(1997-2003)/早稲田大学大学院アジア太平洋研究科助教授(2003-2006)/同 教授(2006-現在)/東京大学大学院教育学研究科客員教授(2011-2013)

文部科学省日本ユネスコ国内委員会委員、国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所客員研究員ほか歴任



File 02 / ファーラー・グラシア

専門分野：国際移動、社会階層論、グローバリゼーション、国際教育
研究テーマ：国際移動、アイデンティティ・市民権、レースとエスニシティ

【主な経歴】

東北大学社会階層と不平等研究教育拠点フェロー(2006-2007)/お茶の水女子大学教育研究特設センター助教(2008-2009)/早稲田大学大学院アジア太平洋研究科准教授(2009-2014)/同 教授(2014-現在)/早稲田大学アジア国際移動研究所所長(2018-現在)

International Migration Review and Migration Studies 編集委員会委員ほか歴任



File 03 / レニー・デイビッド

専門分野：日本政治、東アジア地域安全保障、国際関係と文化
研究テーマ：国際・地域規範、歴史メモリー、社会運動、経済的正義、帝国主義と抵抗等

【主な経歴】

東京大学社会科学研究所助手(1996-1998)/ウィスコンシン大学政治学部助教授(1998-2006)/米国務省テロ対策室地域専門家(2000)/ウィスコンシン大学政治学部准教授(2006-2007)/プリンストン大学東アジア学部教授(2007-2017)/早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授(2017-現在)

スタンフォード大学出版会 'Studies in Asian Security' Book Series 共同編集長、国際交流基金米国諮問委員会委員ほか歴任

